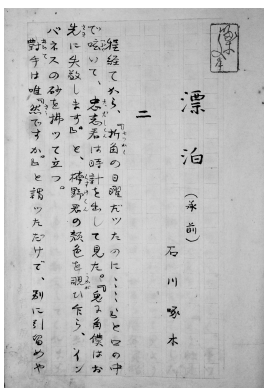
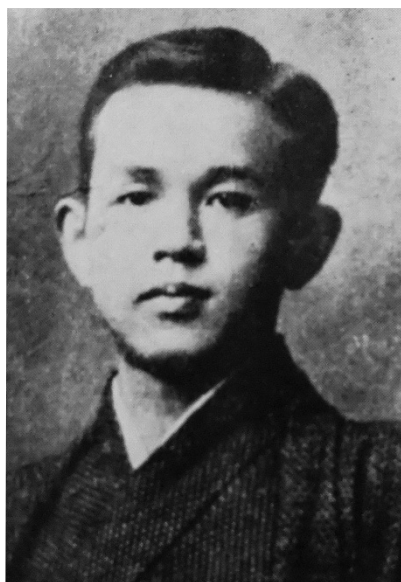


歌集『一握の砂』や『悲しき玩具』に多くの優れた短歌を遺してきた石川啄木。実は本当になりたかったのは小説家でした。しかし志に反し書いても書いても売れず、行き詰まっていきました。啄木の小説執筆への意気込みや、創作の苦悩を「啄木文庫」に所蔵されてきた小説の原稿や日記からたどります。

①



②



①「漂泊」二(明治40年8月)

②「その人々」(明治41年8月)

③「札幌」(明治41年8月)

④「束縛」(明治42年1月)

③



④



会 期 令和5年

4月12日水▶10月10日火

〈7月6日(木)、9月4日(月)・5日(火)は館内整理のため休館〉

問合せ 函館市文学館 TEL:0138-22-9014

### 主な展示資料

小 説

- 「漂泊」二
- 「その人々」
- 「札幌」
- 「束縛」
- 「不穩」
- 「窓(一郵便局員の日記)」

創作ノート

- 「信者の家」

は が き

- 宮崎大四郎宛 明治41年8月4日付

日 記

- 明治41年日誌(8月2日・3日)
- 明治42年当用日記(1月10日・11日)

# 「小説家・石川啄木」

令和5年度  
函館市文学館石川啄木直筆資料展 特別展



函館市文学館

函館市末広町22-5  
TEL(0138)22-9014

入館料 一般:300円

学 生(小学生~大学生):150円

※20名様以上の団体は2割引



【主催】公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団